



経済という現実

令和7年4月5日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

国家財政と経済情勢、為替と金利、金融における経済の変化はグローバル経済とともにその変化を基盤として新たな未来を有するものである。

これら現実において、正しい財政政策は唯一国家の未来を実現できるものである。これらは現状のインフレーションなど、国民の生活の困窮を有するものであり、健全な経済の運営と財政、金融運営などは、国民の生活の維持と新たな未来への参加などその実現を要求されるものである。

これらは新たな財政計画や、経営の政策などの要求は現実に即し、自由経済における貿易と経済の現実はその金融とともにグローバル経済に対し自国の経済運営を要求される。

これらは経済におけるブレーンは、これらすべての現実を理解し、その経済運営を要求されるのである。

これらは正しい世界経済への理解は唯一自国の健全な経済運営を実現できるものであり、それら世界経済の現実に対して、資本力、技術力、需要と供給のコントロール、為替政策、金利政策など、自国経済の健全性の回復を求められるものである。

これらは明らかに物価と資本力、企業において今日の現実の変化に対して、後塵を排することは否定できない。

それらはあたら他な技術進歩における世界の現実に対して、それら新しい産業の育成が未熟なためである。

それらが相対的な国家経済の衰退を与え、金融とともに世界の先端性という現実に対してその現実の停滞性を与えるものである。

これら世界は次世代への転換を模索し、それらが新たな産業において与えられるものである事に対して、既存現実から脱却でき無い日本の現状は、既存産業が新しい世界の現実への参加を行い得ないのである。